

VI まとめ

今年度は最終年度ということをもまえ、全教職員（定時制・通信制）に3年間を振り返ってのアンケートを実施し、アンケート結果をまとめた。

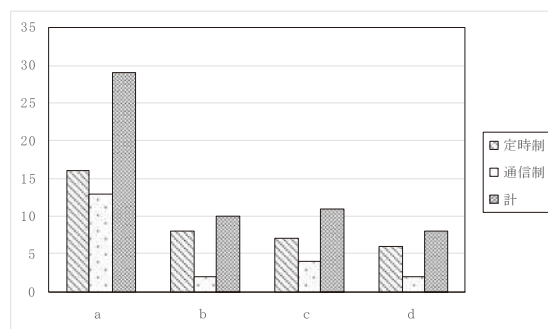
平成29年度教員対象アンケート（12月実施）

○進路サポート室（尾形 淳子 進路アドバイザー・桑名 暢 キャリアカウンセラー）について

1. 進路サポート室を相談・面接等で訪問した回数は？

a 0回 b 1～2回 c 3～5回 d 5回以上

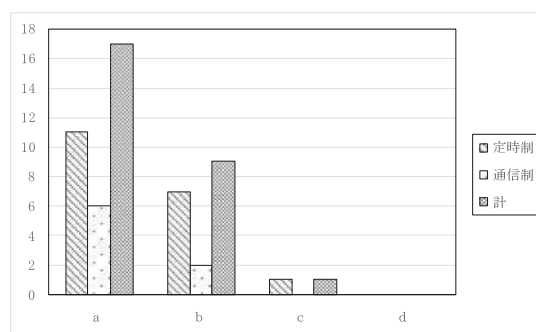
	a	b	c	d
定時制	16	8	7	6
通信制	13	2	4	2
計	29	10	11	8



2. 1. で相談したと回答した方は、相談してどうでしたか。

a とても良かった b 良かった c 良くない d とても良くない

	a	b	c	d
定時制	11	7	1	0
通信制	6	2	0	0
計	17	9	1	0



3. 2で a, b と回答した方は、具体的にどのような点が良かったと思われましたか。

【定時制】

生徒の取り組みの状況や昨年度の比較などを伺うことができたこと。／企業視点のアドバイスが参考になった。／教員と異なる視点、広い専門知識を持つ方と話せて参考になった。／幅広い知識、とりわけ宮城県情報は具体的で明確だった。／安心して相談できた。／教員ではない立場視点で生徒の相談に乗って下さるところがとてもよい。／迷っていた生徒の方向性が定まった。／具体的で幅広い情報の提示、即時に生徒の悩みに対応できる。／丁寧な対応をいつもしていただいた。／担任の負担を軽減してくれた。知らなかったことを教えてもらった。／生徒が担任には話さない情報などを聞くことができた。／進路で迷っている生徒の指導を連携しながら指導できた。／共通認識を持って生徒の指導にあたれた。手が回らない生徒を細やかに指導していただいた。／生徒の情報交換ができ連携して指導にあたることができた。生徒・保護者との係わり方や指導の方向性についてアドバイスをいただいた。／進路課・担任会だけでなく、個別の生徒の相談ができる場があつてよかった。／宮城県の状況を詳しく説明してもらった。

【通信制】

就職採用する側の目線で、高校生の就職活動において考えておくべきこと、押さえておくべきことを生徒に伝えていただいた。教員ではない方の見方や考え方を教えていただいた。(2名)／面接の指導や具体的なアドバイスをいただくことができた。／個々の進路に応じた適切なアドバイスをいただき、進路決定に結びつけることができた。／自分で調べたり同僚に聞いたりしても分からなかった情報を提供してくれた。生徒に希望を与えてくれた。／生徒にとって今後の指針になった。／相談に行っている生徒についてどのような状況でどのようなアドバイスができるかなどの情報交換ができ、具体的に生徒への指導に役立てることができた。／実際の企業面接官の立場からのアドバイスが受けられた。／様々な取り組み方の具体的なアドバイスが的確でわかりやすかった。

4. 2で c, d と回答した方は、具体的にどう改善してほしいと思いますか。

【定時制】

最初の年、進路アドバイザーに「療育手帳」を持つ生徒のことで担任・コーディネーターと相談させていただいたが、思うような支援に至らなかった。具体的な手立てを教えてくださいました。

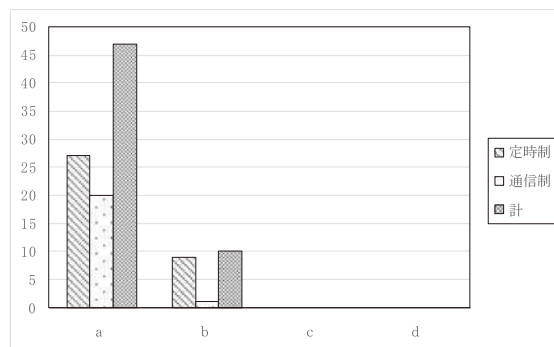
【通信制】

c、d と回答したわけではなく、要望として。就職の面接で必ず聞かれる通信制生徒の独自の弱点といえる内容（「なぜ通信制に通っているのか」「入社したら毎日来られるか」「前の高校をなぜ辞めたのか」など）についての答え方、自信の持ち方の指導を強化してほしい。

5. 外部人材（進路アドバイザーおよびキャリアカンセラー）に支援してもらうことは、生徒にとって有効に感じますか。

- a 当てはまる b どちらかという当てはまる
c どちらかという当てはまらない d 当てはまらない

	a	b	c	d
定時制	27	9	0	0
通信制	20	1	0	0
計	47	10	0	0



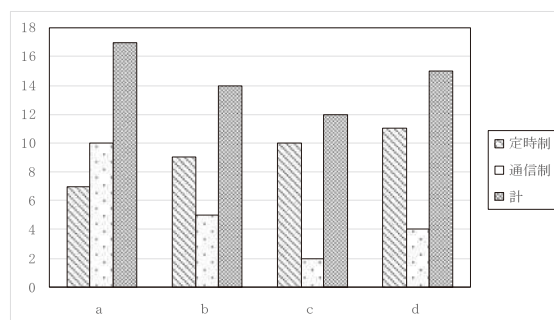
○ソーシャルスキルトレーニング講座

※教員については「3年間」を振り返ってとする。

6. 講座に参加した回数は？

- a 0回 b 1～2回 c 3～5回 d 5回以上

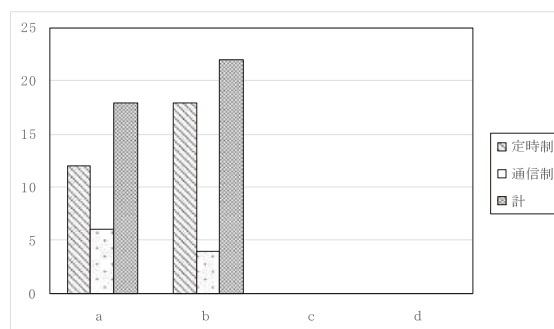
	a	b	c	d
定時制	7	9	10	11
通信制	10	5	2	4
計	17	14	12	15



7. 6で参加したことがあるという方は、受講してどうでしたか。

- a とても良かった。 b 良かった c 良くない d とても良くない

	a	b	c	d
定時制	12	18	0	0
通信制	6	4	0	0
計	18	22	0	0



8. 7で a, b と回答した方は、どういう点が役に立ちましたか。

【定時制】

これまでの経験を通して身についたと思っていたスキルを、現在の最前線の立場からの講義によって捉え直すことができた。／内容が具体的でわかりやすい。(6)／面接試験における会社側の見方などを具体的にわかりやすく教えてくださり、生徒の面接に対する準備や心構えにとっても役立ったと思う。／採用する立場からの観点で話をしていただける、ポイントを絞った明確なアドバイスがいただける、生徒の自己肯定感が高まる話にさせていただいた点。／具体的で聞いてみたいと思っていたことを話してもらえた。／自分自身の指導の振り返りとして参考になった(3)。／ライフスキル講座の参考になった。／専門家から話を聞くことで考え方・指導を「心のよりどころ」を持って行えた。／具体的な指導法が見えてきた。／生徒をいつも励まし誉めてくれてやる気を起こしてくれた。／生徒向けの講座としながらも、実は教員の指導のポイントが感じられる内容でとても役立った。／卒業後、社会に出て役に立つスキルという視点での講座は貴重であり、自らも大いに学ぶことができた。／教員とは違う角度からの指導法。(3)／面接官の視点や志望動機の評価を教えてくれた。／進路を具体的に決定するための考え方のアドバイス。／生徒がどのような指導を受けているか把握することで、ぶれない個別指導を行えた。／履歴書・志望動機の書き方を生徒とともに勉強できて良かった。／すぐに使えるスキルについて触れられていて生徒にも伝えやすい。／生徒への接し方、言葉など参考になった。／個別指導で講座の内容を確認しながら指導できた。

【通信制】

実際に社会でビジネスをしている方の視点で、これから社会に出ていく人が身につけるべきこと、知っておくと良いことを伝えていただいた点。教員が『きっとこうだろう』と思いこんでいた部分があったと分かった。／採用する側や、外部からの視点での話も聞くことができ、生徒への就職活動を指導する上で役立てることができた。／生徒に指導するポイントがわかった。／志望動機の書き方や、企業訪問の際の心構えのお話が特に勉強になりました。(2)／教員自身が様々なスキルを学ぶ時間として役に立った。／自分が仕事に何を求めるかという視点から企業を選ぶこと。／企業を選ぶポイントや優先順位を自分で考えるということ。／具体的でわかりやすい例をあげながら説明してくれる。(2)／具体的な生徒への指導のポイントがわかった。就職指導が初めてだったので、就職試験に向けてやるべきことがわかって良かった。／視点が広がったこと。

9. 7で c, d と回答した方は、どういう内容だったらよかったと思いますか。

(回答なし)

OCSプロジェクトについて

10. このCSプロジェクトで、自分自身で身についたと思うスキルを書いてください。

【定時制】

会社訪問の重要性と訪問時のポイント。(担任として指導していた頃は会社訪問やオープンキャンパスをそれほど重視していなかった。) / 頭の中が整理できた。 / 生徒の成長を信じて生徒を誉めて伸ばすことを意識しながら面接指導をするようになった。 / 個別面談をする際の留意ポイント。(生徒の希望を尊重して実現のための手助けをする。経済的に困難を抱えた生徒への対応、家庭からの協力を得られない場合の対処法など学ぶところが多かった。) / 具体的な志望動機の手書き・面接での回答の仕方。(4)。 / 生徒に対応する際の心がけ。(よいところを先に話す、具体的に話すことなど。) / ライフスキル講座。 / 生徒に寄り添って話を聞こうと思うようになった。 / これまでは卒業年次になってどうするかを考えていたが、卒業年次になる前にどうしていくかを考えるようになった。 / 進路指導について就職・進学ともに、まだまだ教員が勉強しなければならないということ。 / 進路指導の際の向き合い方。 / 多様な生徒への対応方法など。 / 多様な生徒へのアプローチの仕方、良いところ探しというものの考え方。 / 生徒自身に考えさせ、生徒自身の口で答えさせるように考えるようになった。 / 生徒に対する接し方。(3) / 進路について迷っている生徒への指導のあり方。 / キャリア教育の観点で生活指導を見直す良い機会になった。 / 違う視点で生徒へ指導できるようになった。 / 以前の高校は就職に強く、学科に任せた進路指導でそれほど大変さを感じていなかった。多様な生徒の進路指導の話を聞いて自分の指導が見えてきた。 / 「なるほど」と思うところは多かったが、まだ身についたか分からない。 / 生徒を見る目についてハッとさせられた。 / 企業が何を求めているか、外部の目で考える。 / 自分に向き合い見つめ直すことが大事だとわかりました。 / 就職試験に向けた指導。 / 本校生徒の意識の傾向とその指導法・接し方。

【通信制】

教員とは異なる進路指導についての発想法。 / 就職指導を行う際、生徒にどういうことを考えさせると良いかなどのポイントや、面接練習、就職や進学の志望動機の手書き、会社訪問の際の指示など全体的に自信を持って指導できるようになりました。(5) / マイナスの言葉がけではなく、プラスの言葉がけをすることを心がけること。 / 自分自身というより「チームとしての学校のありかた」を描くことが出来たように感じます。 / キャリア意識の向上。 / 本校の生徒にはとにかくどんな些細なことでも、具体的に詳しく筋道を立てて根気強く指導することの大切さを学んだ。 / 生徒との距離感、相談時の心構え等。

11. CSプロジェクトは終了しますが、今後の相談活動・SST講座についての考えを書いてください。

【定時制】

このプロジェクトを通してアップした先生方のスキルを生徒の指導に活かしてほしい。外部人材の活用の有効性はもちろんであり、何らかの形での継続性を持つ取り組みを検討してほしい。／回数は減るにしても何らかの形で残すべきと考えている。(3)／この事業で学んだことを自分の指導に少しでも多く取り入れていきたい。／外部機関・人材との連携は今後ますます必要になってくると思う。／これからも継続してもらいたい(7)／外部の方からの直接的なアプローチは多ければ多いほど有効だと思う。／これまでのようにはいかなくなるなら、次に自分たちでどうするか話し合う機会が必要か。／教員の目で見た社会と一般の考え方は違うと感じているので、外部の方のアドバイスは必要だと思う。／今後のキャリア教育において外部人材の活用がとても重要であることが分かった。様々な立場の人材とともに進路指導を行うことが必要だ。／教員・担任という視点ではない外部人材の活用により、多くの生徒が自らの進路を切り拓くことができたと思う。一概にスキルを身に付けた教員が応用できるというものではない。この事業の有用性を考えてほしい。／本校の生徒には専門の方の存在が必要だと思う。／ロングホームルームで外部講師の話聞く機会があると大変ありがたい。／生徒個人が気軽に相談できる環境が今後もあると良い。／生徒一人ひとりが様々な事情を抱え丁寧に手をかけなければならないので、担任以外でゆっくりと話を聞いてもらえる人がいるというのは、生徒にも担任にも必要だった。／SST講座は必要な生徒が多数いるが、希望制では聞いて欲しい生徒が参加していないという問題があった。全員に聞かせる術はないか。／担任の指導にのれない生徒、なかなか進路希望が定まらない生徒など、多様な多数の生徒を抱えていると指導しきれなくなるのではと心配になる。この活動専任の確保などをする必要を感じている。／早期の指導に関する方策の情報を得られればと思う。／SST講座は本校生徒にとっても必要だと思う。「総合的な学習の時間」で実施しているライフスキル講座と連携して生徒が全員受けられるといいと思う。／SST講座とライフスキル講座の内容を精選して、早期から全体に指導できないか。他校ではビジネスマナーと称して週2回担任団が指導していると伺った。／進路実現に向けて早期の取り組みは必要不可欠だと思う。

【通信制】

ぜひ今後も、教員とは別の立場で相談に応じて下さる方の配置をお願いしたい。(2)／文書を残す以外に、進路意識を高める生徒用講座や、指導を高めるための職員研修会の開催を継続的にお願いしたい。(費用面についてはPTAや通友会からの支出が良いのではないか)(4)／回数等が減ったとしても、進路に対する相談活動が何らかの形で残り継続できればと思う。(2)／生徒が進学や就職の悩みを相談できるプロがいるというのは、生徒に

とって大変プラスになるので、今後もあった方が良いでしょう。／この経験を活かして、教員自身が可能な部分を引き継ぎ、無理な部分はどこか財源なり人材なりを探す努力をしていくべきである。

このアンケート結果から相談活動・ソーシャルスキルトレーニング講座ともにその有用性が見て取れる。生徒のみならず、相談にくる先生も講座に参加する先生も年を追う毎に増え、波及効果があったといえる。この研究が開始された当初は、教育現場以外の外部人材の活用ということに教職員の抵抗を感じた。しかし、進路アドバイザー・キャリアカウンセラーの真摯な姿勢、生徒の将来を応援する気持ちが年を追う毎に教職員の信頼を得ていった、その結果がアンケートの文言である。

また、1, 6の項目における「a 0回」という人数が多いことも事実である。時が移り変われば企業の考えも変わる、進学を受験制度も変革の時を迎えている。「学び続ける教師」と新採の頃に言われたが、まさに現代はそういう時代と考える。ソーシャルスキルトレーニング講座でも桑名先生が「大人になると人の話を聞くこと、聞くことができる機会は減る。こういうスキルアップの講座も有料になったり、時間が取れなかったりする。」と生徒におっしゃっていた。私たち教員も積極的に学ぶ姿勢を持ち続けたいものである。このソーシャルスキルトレーニング講座を今後どう残していくかは課題である。この内容を教員がロングホームルームですということも考えられるが、回数や内容も減るし実際に講座に参加したことの無い担任が行うのは容易でないだろう。何より外部の社会を知る人が訴える生の言葉の強さがない。土曜開催など案は出しているが難しい状況である。養護教諭からはライフスキルとソーシャルスキルを併せた内容を全員にできないかという意見もあった。今後、どう活かしていくか検討が必要である。

外部人材・外部機関の連携と一口に言うが、この事業で強く感じたのは「確かな人材の確保」ということである。この研究事業を進めることができたのもキャリアカウンセラーの桑名 暢氏、初年度の進路アドバイザー田中 伸子氏、2, 3年目の進路アドバイザー尾形 淳子氏という人材に恵まれたおかげである。特に連携校への本事業の普及ということで桑名先生には各校の要望にあわせて様々な講座・研修会・キャリアカウンセリングを行っていただいた。「生き活きと主体的に動く姿、自信を持たせる話」などを見て、この事業の今後についての要望もいただいている。多くの定時制・通信制の生徒が自分の将来を切り拓く糧となった。

先進校視察でスクールソーシャルワーカーという人材の確保、必要な資格・経歴について伺ったが、明確な回答は得られなかった。大都市圏であっても人材確保は難しいらしく、

県などで雇用して複数校に派遣するなどの仕組みを取っているという話もあった。今後大学で福祉・心理面に精通した資格を有する人材が出てくるとも考えるが、資格があれば雇用できるというものでもない。学校現場も個人情報管理など厳しい状況下に置かれているが、特に定時制・通信制の生徒は、発達障害や精神面での事情を多く抱える者が在籍している。豊富な経験を持つ信頼できる確かな人材という視点を持たざるを得ない。外部人材の活用、外部機関との連携が有効なのは周知の事実なので、確かな人材の確保、その雇用体制の整備などバックアップの枠組みが必要だと考える。

最後に本研究事業の推進にあたりご協力いただいた有識者の先生方、推進委員の皆様に深く感謝申し上げます。貴重なご意見ご助言を賜り、ここまで進めることができました。今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜れば幸いです。

本研究事業は今年度で終了となりますが、この研究を一過性のものにとすることなく、生徒自らが進路を切り拓き、社会で力強く生きていく力を身につけることができるよう、この研究で得たものをどのように活かし、発展させていくか、教員も学び続けることが大きな課題と考えております。